

WAKUWAKU通信

2020
Vol.7

コロナウイルスの影響により緊急支援開始

食によって地域の子どもを地域で支えていく「としまフードサポートプロジェクト」



特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

発行日:2020年 5月 発行者:特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 〒171-0014 東京都豊島区池袋三丁目52番21号

WEB:<http://toshimawakuwaku.com> TEL:090-3519-3745 Mail:info@toshimawakuwaku.com

食によって地域の子どもを地域で支えていく「としまフードサポートプロジェクト」

3月に開催した緊急のフードパントリー

コロナウイルス拡大への対策として小中学校が3月に休校となりました。この突然の休校により豊島区でも子どもがいる世帯に対して大きな影響が出ることが予想されました。

3月1日にアンケートによる実態調査をしたところ96世帯からの回答がありました。そのなかで、「給食がないと、経済的負担はおおきく家計に影響がありますか?」という項目では、83%が影響があると回答があり、「コロナ拡大によって、仕事に行けなくなるなど収入に影響をあたえそうですか?」という項目では、63.5%が影響があると回答がありました。このアンケート結果を踏まえ、毎年定期的に行っているフードパントリーによる食の支援を緊急に実施することにしました。そして「としまフードサポートプロジェクト」として、TOSHIMA TABLEや豊島区で活動する様々なステークホルダーと実行に移しました。開催日は、3月14日・15日・28日・29日の4日間行いました。

対象は、就学援助受給世帯、ひとり親世帯、生活保護受給世帯とし、豊島区内の多くの人知ってもらえるよう休校期間中の一時的な登校日にあわせて豊島区の小中学校にチラシを配布し、生活の困っている世帯へこのプロジェクトが届くように働きかけました。その結果、4日間の開催の中で、約419世帯からの申し込みがありました。

今回は、緊急のパントリーですので、食料品については、米とレトルト食品を中心に寄付を募りました。

提供場所は、通常のパントリーですと、一つの会場でお渡ししていますが、今回はコロナウイルス感染リスクも考慮し、屋外で風通しのいい、9か所の配布場所を確保しました。(提供場所:としまセンタースクエア・目白聖公会・南大塚区民ひろば・真性寺・池袋御嶽神社・金剛院・風かおる里・高三会館・池袋ほんちょうの郷)



1世帯に配布した食料品例

緊急事態宣言で休校延長され、4月は宅配も加えて実施

休校の延長を受けて、4月25日、26日に同様のプロジェクトを開催しました。しかし、コロナウイルスの感染者数も増え、前回と違い緊急事態宣言が出た中での開催だったので、パントリー以外にも希望者には宅配で食材が届くようにしました。また、パントリーで食材を取りに来ていただく際にも、密にならずスムーズにお渡しできるよう対応しました。

コロナウイルスの影響により子育て世帯への負担が増え続けています。今後も、このプロジェクトがプラットフォームとなり、瞬発力と柔軟性を兼ね備えた活動へとつなげていきたいと考えています。



4月開催時の様子 パントリー受け取り場所を11か所に増やして密にならないよう対応

「赤い羽根 臨時休校緊急支援活動支援募金」の助成他、多くのご支援を受けて活動いたしました。ご寄附いただきました皆様に、感謝申し上げます。

主催:「TOSHIMA TABLE」豊島区の子育て支援団体および行政、企業などが食を通じて地域の子どもを支えるグループです。

(参加団体:NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、NPO法人ワーカーズコープ、目白聖公会 IKEBUKURO TABLE)

協賛:豊島区、豊島区民社会福祉協議会

「こども食堂サミット2020～こども食堂であったこと～」開催

「こども食堂サミット2020～こども食堂であったこと～」が、2020年2月2日、としまセンタースクエアにて開催されました。今回で6回目となります。北は北海道から南は沖縄まで、全国からこども食堂を実践している方たち、225名が集まり、会場は熱気に包まれました。



第一部、尾木直樹さんの講演は、尾木ママ流トークが炸裂。こども食堂を実践している私たちに熱いエールを送っていただきました。最後の質疑応答で、不登校の子どもが食堂にやってきたときに、「学校との連携は考えなくてもいい」と言い切られたのは印象的でした。



第二部でのリレートークには、6人の方が登壇。それぞれの「こども食堂であったこと」がエピソードと共に披露されました。最後の栗林さんと湯浅さんによる振り返りトークは、打合せなしならでのスリリングなやりとりがとっても面白かったです。昨年発表されたむすびえの調査では、全国に3718か所、豊島区でも今年度6か所増えて20か所となりました。まだまだ進化中のこども食堂。1年後にはどんなサミットが開催できるか楽しみです。（文責：天野）

「プログラム」

第1部 講演「地域で育つ子どもたち～みんなが集うこども食堂～」 尾木直樹（教育評論家）

第2部 リレートーク「こども食堂であったこと」

- ① 真鍋太隆（東京都・だんだんワンコイン子ども食堂）
- ② 細田光雄（沖縄県・子どもの広場in那覇）
- ③ 佐伯雅子（徳島県・いきいき安心移動こども食堂）
- ④ 高橋亮（千葉県・こがねはら子ども食堂、とうかつ草の根フードバンク）
- ⑤ 門間尚子（宮城県・せんだいこども食堂）
- ⑥ 田中照美（千葉県・TSUGAノわこども食堂）

【番外】「こども食堂実践者の会」について

【振り返りトーク】栗林知絵子、湯浅誠（社会活動家・NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ理事長、東京大学特任教授）

主催：こども食堂ネットワーク・NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 協賛：豊島区



「多文化共生の視点から考える豊島区の防災まちづくり」

1月19日「ふんわりダイニング」という池袋のネパール料理店で防災訓練を行いました。

外国の方が経営している店でこのようなことをやったのは初めてです。地域でやっている訓練の情報が届いてないという現状がそもそもあり、事前に必要性を理解していただくことから始まりました。

当日は通訳ボランティアさんの力を借りながら、消防署の方に食料や簡易トイレなど日頃の備えについての説明を受け、その後お店を閉めて実際に指定避難場所まで歩いてみました。途中見つけた避難所への道案内が日本語のみで、外国の人が多いこの地域の案内板には英語と中国語が必要だという事が実際に歩いてみてわかりました。

公園では地震や火事を想定した訓練を行いました。消火器の使い方、緊急ダイヤルの掛け方と伝えること、煙が発生した建物内での行動の仕方などどれも初めての体験のため、やってよかったと参加者皆さんから言っていました。

このように日本人たちも一緒にやったことにより、緊急時に言葉が通じず困る人がいるという想定を抱くことができます。災害時にパニックや流言飛語に惑わされないためにも、訓練を共有し、お互いが自分のため、それから地域のために備えるようにしていけたらと思います。（文責：石平）



WAKUWAKU入学応援給付金、皆さまからの200万円の寄附が集まりました!!

昨年11月よりスタートした「WAKUWAKU入学応援給付金」の寄付キャンペーンは、おかげさまで目標の200万円を達成。1月から公募開始し、3月には37家庭に高校入学祝い金をお渡し、4月には小中学入学祝い金を36家庭にお渡ししました。全てのご家庭にはインタビューを実施しましたが、コロナの影響で更に困窮している家庭が多かったです。引き続き、食料配布や情報発信など、いつでも相談できる関係を作っていくと思います。



右・阿部彩さん(東京都立大学 人文社会学部 人間社会学科 社会福祉学教室 教授。子ども・若者貧困研究センター センター長)

寄附キャンペーン終了後に東京都立大学教授の阿部彩さんと対談しました。(一部を抜粋して紹介)

栗林: 今後、給付金の成果をどのように発信していくか課題です。

阿部さん: 今回のような支援プロジェクトは、効果を図ることは難しいと思います。ただ「給付金に繋がった子どもが学習支援や子ども食堂にどれだけ来てくれたか」といったデータなら容易に出せますし、今回繋がった子どもが数年後どのように状況が変わったか、その子ども自身や親にインタビューなどでできれば「その時お金を貰って助かったね」以上の成果を外へ見せていけると思います。

栗林: 「余暇に使うお金を削って子ども達のために」というメッセージも頂きました。「皆が1000円出資して、子どもを支える社会にしよう」という人を発掘していくことも、今後の課題です。

阿部さん: それが各地域で行われるようになるといいですね。いきなり日本全国を変えようとなると規模が大きすぎますが、まずは「自分の地域の子どもの」というところから社会を変えていくことは、とても可能性がある動きだと思います。

～初!!「長寿庵×ほんちよこコラボ子ども食堂」から挑戦!!「としまランチサポートプロジェクト」へ～

3月、子ども食堂がお休みになった一方で、学校休校となり、「なんとか子どもの食をサポートしたい」と、ほんちよこ食堂スタッフは2回のランチボックス持ち帰りの子ども食堂をやりました。

4月、緊急事態宣言が発令され、スタッフ同志の接触も難しくなりました。そこで、4月は地域の蕎麦屋「長寿庵」に弁当を作ってもらい、ほんちよこ食堂スタッフ2人のみが、屋外店頭配布する子ども食堂を実施しました。

お弁当を取りに来た親子とソーシャルディスタンスを保ちながらの瞬間交流でした。利用者からの御礼のラインを読み、たとえお弁当を渡すだけの取り組みでも、お腹と心を満たしてくれると実感しました。

そこで、5月からは新たなプロジェクト「としまランチサポートプロジェクト」と題して、豊島区22ヶ所にてランチボックス配布に挑戦します。

お弁当をもらった家庭のママからの声を紹介します。

♡ 最近では外でも食べられず私の料理だけだったり、仕事も出ていたり、何かとストレスも溜まっている中、地域の方々の温かいお心に心から感謝いたします。そして、子供達の安心と温もりと何かと子供ながらに溜まるものを発散させて下る本ちよこ食堂の皆様、子供達は皆さんが大好きです。そういった、私以外の大人の方々の支えに私も安心して仕事できています。こんな、コロナに負けずに私も頑張りたいと思いました。

♡ 美味しいお弁当をありがとうございました。毎回彩りも良く、バラエティーに富んだ栄養たっぷりのおかずとご飯で娘も大喜びでした。普段私が家でほとんど作らないものですので大感謝です。自粛生活始まってから1ヶ月以上になりますが、ずっと2人で毎食自炊しておりますので、すごく嬉しかったですm(_ _)m

♡ 毎回温かい笑顔で迎えてくださりありがとうございました。人との接点のほぼない日々の中、癒され嬉しかったです。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

♡ 4月に引っ越してきたばかりで、学校も休校になり、予想以上に環境がガラッと変わってしまいましたが、このような素敵な企画やほんちよこ食堂の方々が近くにいる下さるんだと思ってとても心強かったです。



寄附・賛助会員でのご支援よろしく申し上げます。

「ゆうちょ銀行からお振込の場合」

【口座番号】00170-5-728808 【加入者名】豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

「ゆうちょ銀行以外からお振込の場合」

【店名】〇一八(読み ゼロイチハチ) 【店番】018 【預金種目】普通預金 【口座番号】5639629

ご寄附・賛助会員でお振込みされた方は、メーリングリストに加入致します。

ご希望のかたは、QRコードまたは、<http://toshimawakuwaku.com/kihusanzyo> よりご確認ください。

クレジットカードでのご寄附、賛助会員費のお支払いも可能です。今回のみのご寄附から月単位での継続したものでご利用いただくことが可能です。

詳細は、WAKUWAKUのサイトまたは、上記QRコードよりご確認ください。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

